

利用者処遇

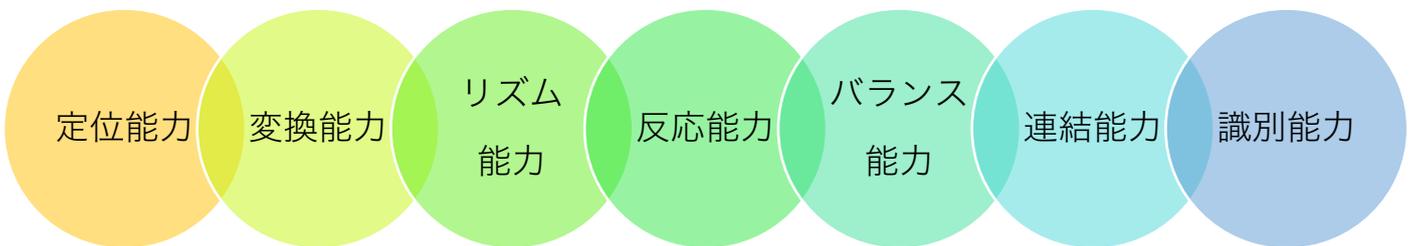
【支援・指導内容について】

- ・ 60分セッションでの運動に特化した運動遊び療育を実施。  
随所に英語の挨拶なども取り入れ非日常的な環境を作り刺激を与えていきます。
- ・ パーソナルを大事に子ども達一人一人に向き合えるように個別療育をメインに行います。  
ですが少人数（2~3人）の集団療育だからこそ養える事もあるので、個別・集団と選択できるようにします。
- ・ 常時ホッピングマット 6m×2m（跳ねるマット）を設置。  
ホッピングマットを使うことで跳んだり、跳ねたり非日常の感覚で脳や筋肉に新たな刺激を与えます。
- ・ 施設は倉庫だからこそその広い空間を生かして、子ども達が周りを気にせず走り回れる空間を提供します。  
そして床材はクッション性が良いものを使用する事で、子どもたちが動き回っても体に負担のないようにします。
- ・ 当施設は見える化を大事にして、保護者が子ども達が、普段どのような療育をしているか見学をできる場所を準備します。
- ・ 療育内ではマット運動、鉄棒、跳び箱などの体操はもちろん行いますが、発育発達に必要な「36の基本動作」の獲得を目指すための様々な動作を行います。



ミズノスポーツサービス（株）：引用

またコーディネーショントレーニングを行い筋肉の固有受容器や眼・脳への刺激を与え、様々な能力を養い感覚統合を発達を目指します。



そして出来なかったことが出来るようになることで自信が付き、新たなことへチャレンジを進めてこれを繰り返すことで自己肯定感を高めます。

- ・これらの能力は運動や遊び（体を動かす事）から一緒に養う事ができます。

【運動と遊びによる効果】＊相互補完性

「体力」＝身体運動の発達

「学力」＝認知的な発達（思考・判断）

「コミュニケーション能力」＝情緒・社会性の発達（コミュニケーション・態度）

- ・そして良く聞くゴールデンエイジ理論ではありますが、これは多くの方が間違った解釈をしています。ゴールデンエイジ期間にとにかく体を動かせば習得ができるわけではありません。

すべての理論の中で大事なことは「量」だけでなく「質」

そして正しい指導「基礎スキル」があつての発達です。

基礎のないのでただ量を多く動かすだけでは、いくらゴールデンエイジ期間とはいえ発達スピードは遅く勿体無いです。

そのため私たちは質の高い療育のもと、「質」を高く基礎動作から子どもたちに向き合い、焦らない療育を行なっていきます。

プレ・ゴールデンエイジ	ゴールデンエイジ	ポスト・ゴールデンエイジ
5～8歳	9～12歳	13～16歳

#### ●ゴールデンエイジ理論に必要な要素

スキヤモンの成長曲線	即座の習得	脳の可塑性
------------	-------	-------

- ・運動に特化はしますが、学習スペースも確保して運動と学習を選べる体制も作ります。

- ・体操以外にも不定期ではありますがヨガ教室や、英語教室、ものづくり、簡易クッキングなど様々な教室を親子で体験ができるようにおこないつつ、保護者同士の交流の場も創造していきます。

#### 【児童発達支援】

- ・幼児にはまず足裏の感覚など「36の基本動作」を主体に療育を行い基礎スキルを養いつつ体に刺激を与えていきます。

#### 【放課後等デイサービス】

- ・基礎スキルが身についたら応用の動作などを取り入れ発展した運動や頭を使う遊びなどを行なっていきます。また放課後等デイサービスについては運動面だけではなく学習面（英語主体に）も随所に取り入れていきます。

#### 【研修内容】

- ・職員へは社内外の研修機会の場を作り、子ども、生理学・運動、健康などの知識を様々な視点から知識を得てもらい療育内にアウトプットをしていき療育の質を日々向上を促します。

(例)

ミズノプレイリーダー研修（ミズノスポーツサービス（株））

**【感染対策】**

- ・ 事業所内には空気清浄機（プラズマクラスター）の設置を行いつつ、定期的な換気およびサーキュレーターでの空気の循環を行います。
- ・ 来所時にはアルコール消毒や手洗いうがいの実施。